

# 田中信太郎展

## 「風景は垂直にやってくる」

会期 2020年8月8日（土）～10月18日（日）

開館時間 平日／10:00～17:00、土曜・祝前日／9:30～19:00、日曜・祝日／9:30～18:00  
最終入館は閉館時間の30分前まで

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

料金 一般800（700）円／大高生・65歳以上の方600（500）円

（）内は20名以上の団体料金 中学生以下・障害者手帳をお持ちの方とその介添者（1名）は無料

主催 市原湖畔美術館 [ 指定管理者：（株）アートフロントギャラリー ]

企画協力 池田修（BankART1929 代表）

お問合せ 市原湖畔美術館 TEL:0436-98-1525 E-mail:info@lsm-ichihara.jp  
<https://lsm-ichihara.jp/>



## 展覧会について

この度、市原湖畔美術館は、昨年8月に逝去された田中信太郎さんを偲び、田中信太郎展「風景は垂直にやってくる」を開催いたします。

わずか19歳での鮮烈なデビューから79歳で亡くなるまでの60年間。田中信太郎のアーティスト人生は、1960年以降の日本の現代美術史そのものでした。読売アンデパンダン展で注目を集め、赤瀬川原平、篠原有司男らによるネオ・ダダイズム・オルガナイザーズに参加。やがて1968年に発表した「点・線・面」のミニマルな表現は、美術界のみならず、倉俣史朗をはじめとするデザイナー、建築家にも強いインパクトを与えました。そしてパリ・ビエンナーレ、「人間と物質」展、ヴェネツィア・ビエンナーレ等の国際展で日本を代表するアーティストとして活躍。しかし、病床に倒れ、数年に及ぶ闘病生活を経て、新たな表現形式による「風景は垂直にやってくる」をもって復活、精力的に制作活動を続けました。また、ブリヂストン本社、ファアレ立川、越後妻有、札幌ドーム等、数多くのコミッションワークも手がけ、その作品は日常の風景のなかで人々に親しまれました。

本展では、田中の作品を時代の変遷を追って、当時の写真や田中の言葉とともに紹介。それぞれの時代に田中がどのように考え、制作し、生きたかを伝えます。また、日立のアトリエの一部も再現。多くの人に愛された田中の繊細でおおらかな作品と人の魅力と、在野を選び作品を創ることで生き抜いたひとりのアーティストの歩みを感じ取っていただければ幸いです。

## 作家プロフィール



田中信太郎 (1940～2019)

### 田中 信太郎 (たなか しんたろう)

1940年、東京生まれ。茨城県立日立第一高校卒業後、上京。二紀会展（褒賞）、読売アンデパンダン展に出展。1960年、ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズに参加。その後、第6回パリ青年ビエンナーレ展（'69）、第36回ヴェネツィア・ビエンナーレ（'72）への参加など、国際的に活躍。80年より病気療養のためしばらく制作から離れるが、回復後、『風景は垂直にやってくる』（'85）を発表。ブリヂストン本社ロビー彫刻『そのとき音楽が聴こえはじめた』（'86）などのコミッションワークを多数手がける。2001年「饒舌と沈黙のカノン」（国立国際美術館）開催。日立市のアトリエで精力的に制作を続けた。2019年8月23日、逝去。



## 展覧会の見どころ

### 1. 日本の現代美術史を生きたアーティストの歩みを、作品、写真、言葉で紹介

19歳でのデビューから、ネオ・ダダへの最年少での参加、時代の前衛たちとの交流、倉俣史朗をはじめとするデザイナーや建築家との協働、ヴェネチア・ビエンナーレ等の国際展での活躍、「風景は垂直にやってくる」を携えての病からの復活、そして晩年まで。田中のアーティストとしての軌跡を、作品、記録写真、映像、折々に記した言葉を通して辿ります。



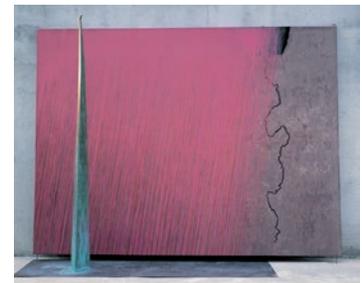
音楽（参考画像）



ネオ・ダダイズムオルガナイザーズのメンバーと（右側が田中）



倉俣史朗（左）と田中信太郎



風景は垂直にやってくる（参考画像）

### 2. 創作の現場であったアトリエの一部再現

田中の多くの作品を生み出した日立の山の中腹にあるアトリエの一部を再現。コミッションワークのためにつくられた多くの模型やドローイング等も展示、思考と制作のプロセスの一端を紹介します。



アトリエの内観



アトリエの内観（参考画像）

### 3. キュレーター、アーティストによる田中信太郎へのオマージュ

今回の展覧会の企画には、田中与40年近く親交のあったBankART1929代表の池田修が協力。また図録には、田中が深い信頼をおいた3人のキュレーター、中井康之（国立国際美術館）、光田由里（DIC川村記念美術館）、保坂健二郎（東京国立近代美術館）が作家論を、またネオ・ダダ時代を共にした吉野辰海、篠原有司男、田中と共同展を開催した中原浩大等、アーティストたちがエッセイを寄稿。多くの人に愛された田中の魅力を伝えます。



## 展覧会図録

田中信太郎展「風景は垂直にやってくる」

作品図版約 35 点、記録写真約 30 点、他資料収録

作家論執筆	中井康之（国立国際美術館） 保坂健二郎（東京国立近代美術館） 光田由里（DIC 川村記念美術館）
エッセイ寄稿	篠原有司男（作家） 中原浩大（作家） 吉野辰海（作家）
インタビュー 年譜	池田修（聞き手：北川フラム）
デザイン 仕様	久保頼三郎 80 ページ B5 カラー
発行日	2020 年 8 月 8 日
発行	市原湖畔美術館

8 月 8 日より当館ショップで販売開始。全国書店、アマゾンでも取り扱い。

## オープニング・追悼懇談会

田中信太郎さんにゆかりのあった方をお招きした懇談会を催します。

司会：池田修、北川フラム

日時：2020 年 8 月 9 日（日）11：45～13：15

会場：市原湖畔美術館 多目的ホール

会費：3,500 円

会の模様は後日ホームページにて報告いたします。

注）本イベントは一般からの募集は行いません。

## ご来館のお客様に下記のご協力をお願いしております。

- ・ご入館にあたり、来館者の皆さま（グループの代表者 1 名）の連絡先（お名前、ご連絡先）を頂戴しております。
- ・館内では、マスク着用のご協力をお願いいたします。
- ・こまめな手洗いにご協力をお願いします。
- ・咳やくしゃみをされる際は、マスク、ハンカチ、ティッシュなどで口をしっかりと覆う「咳エチケット」にご協力ください。
- ・発熱、咳などの風邪症状がある方や、体調に不安がある方は、ご来館をご遠慮ください。
- ・混雑状況によっては、入場制限をする場合がございます。



広報用画像



1. 田中信太郎 (1940 ~ 2019) / 2. 《何故、その庭に翳りはないのか、》1985 / 3. 《一羽の鳥の為のディベルティメント》1990 / 4. 《彼岸の陽炎、あるいは子宮の彼方から》1992-93 / 5. 《○△□の塔と赤とんぼ》2000 / 6. 《○△□ `萌、 `凜、 `律、》2001 / 7. アトリエ



アクセス

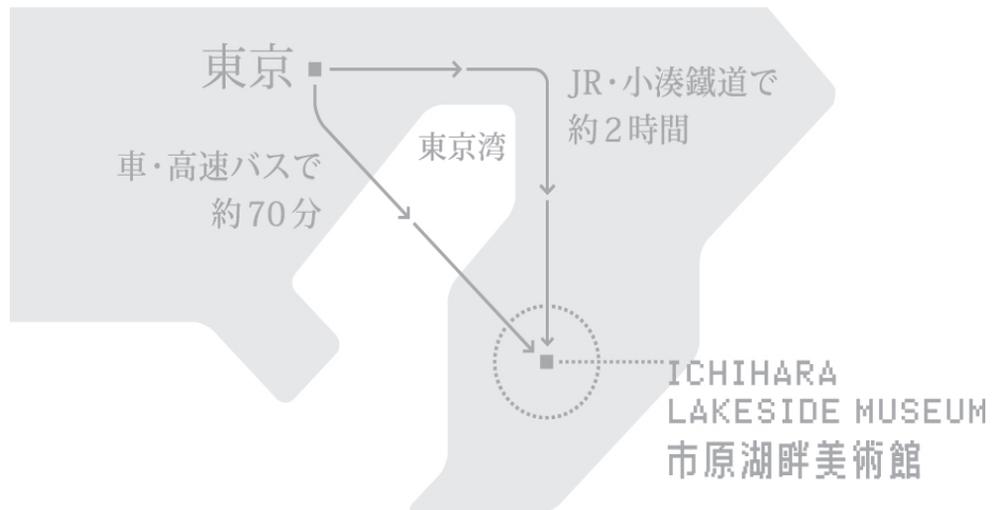
所在地：〒290-0554 千葉県市原市不入 75-1

鉄道で：JR 内房線五井駅乗り換え 小湊鉄道「高滝」駅より徒歩 20 分 / レンタサイクル 10 分 / タクシー 5 分

お車で：圏央道「市原鶴舞 IC」より約 5 分

高速バスで：東京駅・羽田空港・横浜駅より約 1 時間

(市原鶴舞バスターミナルよりタクシー 約 5 分)



広報についてのお問い合わせ

市原湖畔美術館 本山・富樫

tel : 0436-98-1525 fax : 0436-98-1521

press@lsm-ichihara.jp www.lsm-ichihara.jp

